



— 家族月間にあたり —

## 平和の構築は家庭や家族から始まる!

国際ロータリー第2510地区

2011-2012年度 ガバナー **熊澤隆樹** (小樽RC)

家族月間は1995～96年度ハーバート・ブラウンRI会長が、世界平和は地域・家族から始まるとの考えを表明し、2003年7月のRI理事会ではジョナサン・マジリアベ元RI会長が家族の重要性を主眼にしたことを称え、12月を『家族月間』と指定されたことで始まりました。

このたび、バネルジーRI会長は、テーマの強調事項の第一番目に『家族』を取り上げました。そして昨年1月の国際協議会で次のように述べられておられます。

「家族は家から始まります。あらゆる家族の中心を成しているのが母と子です。単なる個人の集まりではなく、家族によって築かれています。一つ屋根の下に暮らし、互いを助け合い、共に運命を分かち合っているのが、家族というものです。」

また、マザー・テレサの次のような言葉を紹介しています。「世界がひっくり返り、苦しみにあふれているのは、家族の中、そして家族の間に愛が欠如しているからです。子供のための時間も、家族の時間も、共に楽しむ時間ありません。愛は家庭から始まり、家庭に息づくものです。今日これほどの苦しみと不幸せがはびこっているのは、その愛が足りないせいなのです。皆が忙しさに追われ、子が親と過ごす時間、親が子と過ごす時間がほとんどありません。世界平和の崩壊は、まず家庭から始まるのです。」と。

今日、日本で起こっている子供への虐待、フリーター、ニート、引きこもり、いじめ等々はここに答があるのではないのでしょうか？

ロータリアンは、世界の子供たちに手を差し伸べていますが、これは世界の家族に手を差し伸べることと同じで、家族の絆を深めることができれば地域全体の強化につながり、究極的に世界をより良くすることにつながるとブラウン元RI会長が述べています。ですから、『ロータリアンは、奉仕の担い手となるだけでなく、平和の唱道者であることを忘れてはなりません。平和の構築は、家庭や家族がかかわる全てのことから始まるのです。非暴力の教えを実践し、平和な社会を創造していくための青写真を描きましょう。ロータリアンは世界のいたるところで、こうしたことを実践する努力をしています。』と先の国際協議会でヴィヤス・パストガバナーが話しておりました。

最後に『ロータリー家族』という言葉聞いたことがあると思いますが、これは文字通りロータリアンの家族、すなわち配偶者や子ども、両親といったような人達が入ります。これらには亡くなられたロータリアンの家族も含まれています。その上、ロータリーの様々なプログラムに参加している、あるいは参加したことのある人達も『ロータリー家族』です。インターアクター、ローターアクターはもちろんのことですけれども、ロータリー地域社会共同隊(RCC)やプロバスクラブ、インナーホイールクラブのメンバー、米山奨学生、財団学友、米山学友、青少年交換学生、ROTEXなども挙げるができます。